

第3学年 生き方「同和問題と自分」 指導計画

単元目標

【分かる】

同和問題（部落差別）がどのようなものであるかが分かり、これまでに差別に苦しみながらも、それに対峙してきた人たちがいることを知るとともに、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。

【深める】

仲間との語らいを通して、自分の中にも差別に向き合っていない心の弱さがあることに気づき、自分自身を深く見つめ直すことができる。

【育む】

これまでの様々な人権問題を振り返ることを通して、差別や偏見にとらわれず、よりよい生活をしていくために自分ができることを真剣に考え、自他を大切にすることを育むことができる。

単元の流れ(全12時間)

時	過程	ねらい	学習活動	★指導のポイント ○準備物
1 ・ 2	分 か る	これまでの差別の歴史を知ることを通して、同和問題（部落差別）がどんなものであるかを知り、これまで差別に苦しみながらも対峙してきた人たちがいることがわかる。	<u>課題：差別の歴史を知ろう</u> ①差別について考える。【全体】 ②同和問題（部落差別）について知る。【全体】 ③差別の歴史を知る。【全体】 ④映像資料「その時 歴史が動いた」を視聴する。【全体】 ⑤感想を書く。【個人】	★感想用紙を回収後、机列表などにまとめ、生徒の心の変容をとらえていく。 ★本時は全体指導がメインとなる。その中で、①～③では30分程の時間を設け、同和問題（部落差別）・解放令・全国水平社を言葉とともに、その内容をじっくりと確実におさえる。 ★④では、第1時で最初の15分20秒までを視聴し、残りは第2時に視聴する。 ○映像資料「その時 歴史が動いた」、ワークシート
3	分 か る	同和問題（部落差別）の現状を知ることを通して、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。	<u>課題：同和問題（部落差別）について考えよう</u> ①前時までを振り返り、今なおこうした差別はあるのかどうかを考える。【全体】 ②現在の差別の現状を知る。【全体】 ③映像資料「BaribaraxBURAKU」を視聴し、現在でも、差別と立ち向かっている人がいることを確認する。【全体】 ④本時の感想を書く。【個人】	★①では、同和問題（部落差別）に特化して考える。 ★③では、法務省の資料を提示し、その中で今も差別に苦しんでいる人がいることをおさえ、特に結婚問題で切実な思いをしている人たちがいることを説明し、第3時から内容につなげられるようにする。 ○映像資料「BaribaraxBURAKU」、ワークシート（歴史年表など）
4	深 め る	映像資料を通して、自分の結婚や同和問題に対して揺れ動く「真央」の気持ちを理解することができる。	<u>課題：ビデオを通して考えよう</u> ①映像資料「あなたに伝えたいこと」を視聴する。【全体】 ②感想を書く。【個人】	○映像資料「あなたに伝えたいこと」、ワークシート

5	深める	<p>家族が旧同和地区の出身であることを伝えるか・伝えないかを考えることを通して、差別に向き合っていない自分があることに気づき、心の弱さについて、考えを深めることができる。</p>	<p><u>課題：自分だったら、伝えるか・伝えないかを考えよう</u></p> <p>①自分はどうか（A:伝える B:伝えない C:迷う）を、理由をはっきりさせながら書く。【個人】</p> <p>②書いた内容を交流し、理由を分別する。【グループ】</p> <p>③それぞれのホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】</p> <p>④理由の中にある共通点について考える。【全体】</p> <p>⑥本時の感想を書く。【個人】</p>	<p>★①では理由を必ず書くことができるようにする。</p> <p>★②では、立場はもとより、理由を明確にして分別することができるようにする。</p> <p>★④では、時間を十分に設け、「後で面倒になるから伝える」や、「ばれたら面倒だから伝えない」などという理由を取り上げる。例え立場が違っていても、「社会関係に介在する差別に向き合っていない」という共通点があることを理解し、自分にはそういった弱さが無いかをじっくり考えることができるようにする。その過程で、同和地区でないことに安心した「真央」の弱さを例として取り上げる。</p> <p>○ワークシート、ホワイトボード</p>
6	深める	<p>婚約者の家族が旧同和地区の出身であることを伝えられた時にどうするかを考えることを通して、自分は差別に対して、どう向きあっていけばよいのかを考え、自分を深く見つめ直すことができる。</p>	<p><u>課題：自分がもし伝えられたらどうするかを考えよう</u></p> <p>①自分はどうかを、理由をはっきりさせながら書く。【個人】</p> <p>②書いた内容を交流し、それぞれの方途や理由を整理する。【グループ】</p> <p>③それぞれのホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】</p> <p>④差別に対して、自分はどのように向き合っていけばいいのかを考える。【全体】</p> <p>⑤本時の感想を書く。【個人】</p>	<p>★①・②では、「私は全く気にしない」という意見が多数になることも考えられる。そうなった場合は、机間巡視をする中で、「相手に伝えた理由を聞いてみたらどうなるか」と問いかけ、そこに差別が介在するかを考えることができるようにする。そして、何気ない日常の中にも潜在的に存在する差別について考えることができるようにする。</p> <p>★④では、教師の発問によって「知ることの大切さ」や差別に対して「アンテナを高くしていくことの有用性」などを理解することができるようにする。</p> <p>○ワークシート、ホワイトボード</p>
7	育む	<p>これまでの人権学習を振り返り、偏見にとらわれず、強い意志をもちたいという思いをもつと共に、自他を大切にすることを育むことができる。</p>	<p><u>課題：3年間で学んだ人権学習を振り返ろう</u></p> <p>①これまでの学習を振り返る。【全体】</p> <p>②今までの学習でより深く調べたいテーマや、新たに調べたい人権問題を考え、テーマごとにチーム分けをする。【全体】</p>	<p>★3年間で学習してきたことを単元別に振り返る。</p> <p>★テーマ設定をする際には、具体的な事案を取り上げてよい。教師側がある程度提示してもよい。</p> <p>○ワークシート</p>
8・9・10	育む	<p>自分の思いを強くもち、相手を意識して、分かりやすく発表することができる。</p>	<p><u>課題：テーマについて追究し、発表の準備を整えよう</u></p> <p>①タブレットを使ってテーマについて追究する。【チーム】</p> <p>②PowerPoint (KeyNote) を使って発表会に向けての準備をする。【チーム】</p>	<p>★インターネット上にはあらゆる情報が存在するが、中には誤ったものや偏見に満ちた情報に直面することもある。これらを理解した上で、指導する際には、ただ防御線を張るのではなく、その情報が本当に正しいのかを考えると、批評的思考(クリティカルシンキング)を培えるようにしていく。</p> <p>○タブレット機器、ワークシート</p>
11・12	育む		<p><u>課題：調べたことを伝え合おう</u></p> <p>①発表会を行う。【全体】</p> <p>②感想用紙を切り取り、相手に渡す。【全体】</p>	<p>★指導する側は、事前にスライドの内容を確認し、誤った情報や差別的な内容がないかをチェックする。</p> <p>★チーム数にもよるが、おおむね2時間程度の時間を設け、発表の後には必ず感想を書き、意見の交流ができるようにする。</p> <p>○タブレット機器、感想用紙</p>